

# 大門だより

No. 2  
(462号)

荒川区立大門小学校  
校長 野澤 一代  
令和5年 5月 1日

大門小ホームページ

荒川区立大門小学校

検索

《本校の教育目標》 考える子 やさしい子 たくましい子

## 「特別感」

校長 野澤 一代

5月の季語。木の芽流し、走り梅雨、更衣、豆飯、筍飯、繭、三社祭、薔薇。

都電沿いに薔薇が咲く季節になりましたね。私はこのころ必ず都電と薔薇を撮影します。私の名刺にはその都電の薔薇の写真があります。初任者、3校目、副校長、校長と渡り歩いた学校は、全て都電が近くを走っていました。都電とともに教員経験と年齢を重ねてきました。

4月は「1年生を迎える会」「委員会紹介集会」「離任式」を行うことができました。今まで普通に行ってきた行事を、密を防ぎながら工夫して行うことで、不思議と「ありがたみ」「うれしさ」がにじみ出てきます。子供たちの表情が昨年度の今頃より柔和になっています。当たり前のことを当たり前に行うことで自然と学校生活の安定につながっているようです。学校の日常を一つ一つ取り戻し、子供たちには「学校に来てよかった、楽しいな」と感じてもらえることを増やしていきたいです。

また、2年生以上は「区の学力テスト」も実施しました。2、3年生は国語と算数の2教科、4年生以上は4教科で実施し、6年生は加えて英語もありました。3月下旬から学校では復習を心掛け、苦手な分野を中心に進めてきました。春休みはドリルを持ち帰り、ご家庭でも復習を心掛けていただきました。テスト終了後、子供たちからは、「難しかった。」「がんばったよ。」という声が聞かれました。今後も、引き続き学習においても「達成感」を大切にしていきます。

さて、この手紙の後は、ゴールデンウィークに突入します。保護者会の全体会でもお話をしましたが、子供たちは新しい年度が始まり、高揚感や緊張感で疲れています。このお休みは、「どこへ行こうか。」から始まるのではなく、「何がしたいか。」を子供に尋ね、ゆったりしたスケジュールで過ごしてください。どこかへ出掛けることがお休みの有意義な過ごし方とは限りません。

「特別感」を持たせることが気分転換の最たるものだと思います。大人も疲れると「自分にご褒美」をするではありませんか。それを工夫するのです。

例えば、「今日は特別。学校がんばっているから、いつもよりゲーム時間30分長くてもいいわよ。」「今日はあなたの好きな唐揚げを1kgあげるよ。たくさん食べなさい。」等々。日常の出来事を大きく「盛る」ことで、うれしさ、楽しさが倍增するものです。お金を掛けることが特別ではないのです。そこに親の愛情の「特別感」をそそぐのです。ぜひ、実行してみてください。その結果は、ゴールデンウィーク後の児童の様子で教えてもらいます(笑)

